

令和2(2020)年度科学研究費助成事業(科学研究費補助金)
 実績報告書(プログラム実施報告書)
 (研究成果公開促進費)「研究成果公开发表(B)
 (ひらめき☆ときめきサイエンス~ようこそ大学の研究室へ~KAKENHI)」

課題番号：20HT0041

プログラム名：ことばを美味しく研究しましょう 2020—お料理名の分析で言語学入門—



所属 研究 機関	名称	筑波大学
	機関の長 職・氏名	学長 永田 恭介
実施 代表者	部局	人文社会系
	職	准教授
	氏名	島田 雅晴

開催日	令和2年12月19日(土)
実施場所	オンラインによる開催。以下は実施代表者の所在地情報です。 筑波大学 筑波キャンパス 第一エリア 〒305-8571 茨城県つくば市天王台 1-1-1 筑波大学 人文社会系棟
受講対象者	中学生
参加者数	1人
交付申請書に記載した募集人数	15人

プログラムの目的

本プログラムは、中学生を対象にして、理論言語学の入門となる講義と実習を行うものである。題材として、インターネット上にある料理名を取り上げた。対象としたデータは、日本語母語話者が自分の創作料理に対して付けた料理名で、かつ、日本語表現と英語表現が混在したものである。特に、英語の機能語が使用されている料理名に焦点をあてた。例えば、英語の等位接続詞の and に相当する「&」が用いられている「麻婆豆腐 & 麻婆もやし」のような例である。それに対して言語学的な考察を行い、言語学的視点とはどういうものかを中学生に伝えることが主な目的である。このプログラムで学べる言語学的視点とは次のようなものである。

1. 言語にはそれぞれ個性がある一方で、すべての言語には文法上の共通点がある。
2. 文法には「内容語」と「機能語」という概念があり、言語を分析する上で重要となっている。
3. 個々の言語同士が実社会の営みの中で国や地域を飛び越えて交わるのには、一定の決まりがある。
4. 「和製英語」のような混成表現はヒトの言語の文法を研究するのに重要なデータとなる。

また、本プログラムでは、食生活という日常的な営みを言語学という基礎科学の視点から見ることの有効性を伝え、基礎研究、応用研究双方の重要性と学術研究の奥深さを知ってもらうことも目的としている。

プログラムの実施の概要

- 受講生に分かりやすく科研費の研究成果を伝えるために、また受講生に自ら活発な活動をさせるためにプログラムを留意、工夫した点

次のような点に留意して、実施した。

- ・前もって自学自習して講座にのぞめるように、講座資料を事前配布した。
- ・本科研費研究課題をよく理解している他大学の教員にも実施担当者として参加してもらった。
- ・科研費研究成果の学会発表に利用した資料やポスターを本プログラムでも無理のない範囲で使用した。
- ・実施担当者同士が活発に学術的議論をする様子を意識的に多く見せることで、研究の臨場感や本研究のレベルの高さが伝わるようにした。
- ・講義・実習内容、未学習内容の補足説明や各実施担当者書き下ろしの研究レポートを所収した『まとめの資料集』という報告書を受講者に後日送付した。

- 当日のスケジュール

実施代表者の講義に引き続き実習を行い、相互に関連をもたせて内容理解の促進を図った。当日のスケジュールは以下の通りで、おおむね予定通りに実施した。

9:30～9:50 受付

9:50～10:00 開会式、科研費の説明

10:00～10:20 講義① 言語は何種類あるの？

10:20～10:30 休憩

10:30～10:50 講義② 和製英語って何？ —それって間違った英語？—

10:50～11:00 休憩

11:00～11:50 実習① 言語データを集めよう —お料理の変わった名前を探してみよう—

11:50～13:00 お昼休み

13:00～13:50 実習② 言語データを分析しよう

13:50～14:00 休憩

14:00～14:20 ディスカッション・質問タイム

14:20～14:30 未来博士号授与式、閉会式

- 実施の様子

➢ 実施担当者、参加者との資料を使った討議の場面

The screenshot shows a Zoom meeting in progress. On the left, there are four video thumbnails of participants. The main screen displays a presentation slide with the following content:

P17 レシピタイトルにおける接続詞「と」の用法¹
島田雅晴 (筑波大学)・長野明子 (静岡県立大学)・小野雄一 (筑波大学)
shimada.masaharu.fu@u.tsukuba.ac.jp nagano.9@u-shizuoka-ken.ac.jp ono.yuichi.ga@u.tsukuba.ac.jp
2020年11月14日 10:08 ニューズフォーラム2020 国立情報学研究所

バックパッドを用いた理論言語学研究 (質的研究)
※レシピタイトルをみることでわかる等位接続詞「と」の用法

① 出どころが異なる「AとB」
1) 鯖の味噌煮 と かぼちゃの甘煮
(補例) 「豚生姜焼き と 大塚のご飯」
「菜の花のおひたしとささみの梅肉和え」
「コンチネーズとナッツ・フルーツ」

② 出どころが同じ「AとB」 (その1)
2) 鳥もも肉のあっさり煮 と チキンスープ
(補例) 「赤じそ漬け」と「梅好み」
↓ 意味的な表現
【時短】梅シロップ と その後の梅ジャム

③ 出どころが同じ「AとB」 (その2)
3) 時短 ライスバーガー と ハンバーガー
(補足) 和製英語レシピのモデルか？
「麻婆豆腐も麻婆もやし」 「バンケーキwith自家製ハニーナッツ」

- 事務局との協力体制

本部、部局の各事務局が適切に役割分担をして、一致協力して実施した。

- 広報活動

広報用ポスターを全国の教育委員会に送付した。また、実施担当者が中学校関係者の知人に個別に広報するなどした。

- 安全配慮

オンラインによる講座のため、受講者が通信機器の使用により疲弊しないように注意した。

- 今後の発展性、課題

本講座の基盤となっている科研費研究は順調に進んでおり、今後さらなる進展が見込まれるので、本講座も内容を充実させながら継続していけるものと考えられる。今回を含めた過去2回の実施では対象を中学生としたが、内容が抽象的なところもあり、次回は高校生用に再編成して実施する予定である。オンライン実施の場合同様に、内容が望ましいと感じられた。なお、大学院生を実施協力者として参加させることの重要性や効果は前回の実施で確認しているが、今回はオンラインで実施したので大学院生は参加していない。対面でのプログラム実施が可能になったら、再度大学院生の参加も検討する。